当たり前のこと



感受性を豊かに（五十二）

　**映画『風立ちぬ』**

　先日、この映画を家族で見に行きました。中矢家、夏休み最後のイベントです。小学３年の娘には少し難しかったのか、ポップコーンを食べ終わったら、退屈していました。この映画のテーマはいくつかあると思いますが、震災や零戦開発・戦争よりも、二郎と菜穂子の恋の物語の要素が強かったように思いました。戦争や結核などは、どうしても我々をして死を身近に感じさせますが、そんな時にこそ人は真摯に生きられるものでしょうか。

　喫煙シーンが多いことでも話題になっていて、私も喫煙者ですが、二郎が結核を患っている妻・菜穂子の横で煙草を吸うシーンが特に批判の矢面に立っているようです。二郎は外で吸う配慮を見せますが、菜穂子は自分に残された時間がわずかなことをおそらく知っていて、その場で吸うよう、二郎を促します。先入観を

持たなければ、かなり「グッ」

と来るシーンです。君たちも

もし見る機会があれば自分で

（Ｊ）考えて（Ｋ）みて下さい。

*あしたのために*

 *for tomorrow*

***April 9, 2012→March 1, 2015***

*その１７ August 29, 2013*

北海道小樽潮陵高等学校

*２年E組学級通信　発行者：中矢秀人*

この学級通信は､君たちと私の明日のために、週１回発行する予定です。

　ここに登場する「横山美紀教諭（４３）」は以前私が札幌西陵高校に勤務していたときの同僚で、年齢も同じ、赴任した年も同じで、何かと縁があり、何かとよくしてくれました。記事にあるとおり、肺の難病を患っていて、私が西陵高校にいるときに、片肺の移植手術を受けています。この記事を読むと、「呼吸する」ことすら当たり前でないことが分かります。昨年、彼女についての記事が日本経済新聞に４回にわたって連載されました。そのことについては昨年の１年Ｅ組学級通信でも触れたので詳述するのは避けますが、手術前の彼女の様子といえば、常に冷たいプールに入っているように唇の色は紫で、階段では一段上るごとに立ち止まって肩で息をするような感じでした。口先だけで授業のできる私とは違って、彼女は体育教師だから、自分の体が言うことを聞かないストレスも大きなものがあったかと思います。移植手術後は、半年ほどのリハビリを経て、職場に復帰しました。拒絶反応を抑えるための免疫抑制剤を飲み続けなければならなかったり、その薬の副作用や感染症のリスクなどを心配をしなければならなかったりと苦労は絶えないと思うのですが、「呼吸が苦しかったときのことを考えれば苦にならない」と言い切ります。彼女は復帰後１年して１年生の担任を持ち、今年３月卒業生を送り出してから、休む間もなく４月からまた１年生の担任に、と意欲的に仕事をこなしています。連絡を取るときにはいつも「ムリすんじゃない」と言うのですが、もうお構いましです。本当にムリだけはしないでもらいたいと思っています。

平成２５年８月１４日

北海道新聞夕刊

　「呼吸する。通学できる。食事がおいしい…。」など、私たちが普段当たり前だと思っていることは、実は当たり前ではないのかも知れません。横山先生は、呼吸をすることが当たり前ではなかったので、今普通に呼吸できることに対し、感謝の気持ちを忘れていません。君たちのように毎日通学できることだって、社会や家庭の状況、健康など種々の条件が揃わなければ、かなわないことでしょう。色々な学校に勤務しましたが、様々な事情から大変な思いをしながら学校に通っていた生徒にも、それらの事情から学校を去っていった生徒にも出会いました。君たちは潮陵高校に通えるぐらい能力的にも環境的にも恵まれています。そんな君たちにとっての当たり前のことって何なのでしょうか。潮陵高校に来たのだから、一生懸命に勉強するのは当たり前のような気がします。プラス、塾まで行かせてもらっているのなら、なおさら頑張らなければなりません。更に部活動もさせてもらっている人もいるでしょう。ならば勉強も部活も一生懸命にやるのが当たり前のように思います。文武両道は絵に描いた餅ではありません。実際に両立できれば、自らの成長に大きくつながるでしょう。こうやって考えてみると、君たちにとって(あるいは私にとっても)「当たり前のこと」とはきっと、「メンドクサイこと」とイコールなのかも知れないね。面倒がらずに、取り組んでいきたいものですね。

***２年Ｅ組　実況中継①***

８月２４日(土)は学校説明会で、４時間目の体育は会場設営をしました。私もその係だったので、一緒に作業していました。途中体育館の屋根をたたきつけるような激しい雨が降りましたが、作業は一段落したので、私は職員室へ戻ろうと、渡り廊下を歩いていると、向こうから２年Ｅ組の女子生徒が二人ニコニコして歩いてくるではありませんか。「アレ、さっき体育館で見たはずだけど」、「最後抜け出してサボったのかな？」などの思いが一瞬よぎりました。「どうした？」と尋ねると、「激しい雨が降ってきたので、教室の窓を閉めてきました」とのこと。一瞬とはいえ「サボったのか？」と疑ってしまった自分を恥ずかしく思いました。ごめんなさい。さりげなく行える気遣いや気配りはステキですね。お二人さん、どうもありがとうございました。

前号に引き続き、北海道新聞夕刊の「まど」欄からの記事を紹介しました。このコーナーは時々、「ハッ」とするような記事を載せていますので、北海道新聞を購読している家庭では気に掛けているといいですよ。